



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催

平成30年度世界遺産地域科学委員会と特定鳥獣保護管理検討委員会及びヤクシカ・ワーキンググループの合同会議が2日間にわたり、屋久島町の環境文化村センターにおいて開催されました。

■ヤクシカWGの概要（7月29日）

会議では、各行政機関より、ヤクシカの生息状況及び捕獲状況、平成30年度の取組等について報告があり、各委員からモニタリング調査等へのアドバイスを頂きました。

また、ヤクシカ個体数管理目標だけでなく、植生の回復目標を設定し、森林生態系全体の順応的管理を行う必要性が高まっているとして、森林生態系の管理目標の作成を進めるための具体的な目標項目や目標の作成方法等について議論がありました。

■科学委員会（7月30日）

科学委員会の主な議題は、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況②平成30年度モニタリング調査等の予定③山岳部利用のあり方検討状況④高層湿原保全に関する今後の検討などについて説明及び意見聴取がありました。



特定鳥獣保護管理検討委員会及びヤクシカWG合同会議



科学委員会の様子

環境省からは、登山道の荒廃状況調査結果と今年度の調査予定等、山岳部における利用のあり方等について検討されました。

九州森林管理局からは、平成29年度に実施した事業実績及び平成30年度の事業の中で、屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリング調査、高層湿原の植生状況及び保全対策の検討、衰退樹木調査や縄文杉周辺の下層植生モニタリング調査等について議論されました。その中でも、高層湿原（花之江河）において取り組む保全対策に関しては、各委員の方々から助言等を踏まえ、あらゆる視点から課題と対策について集約し、「高層湿原検討の場」を設置し今後取り組むこととしました。

平成30年度（夏期）インターンシップの受け入れ

（7月9～13日）

国際基督教大学教養学部3年の学生1名が、当センターにおいて7月9日より1週間、農林水産省就業体験実習を行いました。

初日は当センターの森林生態系保護地域における取組概要等を説明した後、屋久島国有林の現地や森林事務所（貯木土場）を見学し、屋久島における国有林野事業の現状や屋久杉土埋木について学習しました。

2日目は、小杉谷周辺までの森林パトロールと著名木の愛子杉の樹勢等の現地実習を、3日目は、レクリエーションの森（ヤクスギランド）の植生調査等の現地実習を、4日目は、ヤクシカ捕獲のための「くくり罠」の見回り業務などの現地実習を、最終日

は、国有林への入林申請に係る事務処理等について実習を行いました。

実習生からは、森林や生態系保全についてほんの一部しか分かっていないと思うが、これから森林の保全を考えていく上で大切な経験となり、林業にも関心が広がったとの感想を頂きました。

体験実習が今後活かされることを期待します。



雨量計の使い方を学ぶ



小杉谷のコケを観察する

生産性向上検討会を開催

（7月10日）

屋久島森林管理署では、森林整備事業（活用型）における林業事業体の生産性向上を図るために、作業内容等を記入する日報による生産管理を進める取組を実施しています。

このような中、日報による生産管理、分析に係る知識の習得等を目的に、九州森林管理局の石神地域木材情報分析官を講師として、職員をはじめ島内の林業事業体、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町等の民有林関係者の総勢26人が参加して、生産性向上検討会が開催されました。

検討会は、川畑屋久島森林管理署長の挨拶の後、石神分析官から生産性向上のための日報管理等について指導を受け、その後、現在実行中の現場において、山邊総括森林整備官より作業状況等の説明がありました。

参加者からは、「日報管理の必要性が良く理解出来て、今後とも積極的に取り組みたい」等の感想が聞かれ、少しでも屋久島における生産性が向上するように努めていくことを参加者全員で確認することが出来て、有意義な検討会となりました。



現地で今後の検討

平成30年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

屋久島森林生態系保全センター及び九州森林管理局で実施する平成30年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。

◎目的

世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し将来にわたって維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を行っていく必要があります。

垂直分布植生調査、縄文杉に関する各種調査、高層湿原保全対策、気候変動の影響調査等々、あらゆる角度からモニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聴きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。

◎業務概要

1. 垂直方向の植生モニタリング調査

屋久島の5地域で毎年度1カ所実施している調査で、過去のモニタリングと比較・分析します。平成30年度は、屋久島南部等地域において調査を行い（図1）、主な調査項目は標高地点別プロットにおける植物相調査及びシカ被害等の状況確認を行います。

2. 高層湿原の植生モニタリング調査及び保全対策の検討

花之江河（図2）における歩道からの土砂流入、シカの影響調査、水位の状況等を調査します。また、小花之江河に昨年度設置した植生保護策内外の状況調査を行います。更には、これまでの経緯を踏まえ、高層湿原の保全対策の検討の場を設けることとしています。

3. 大株歩道等周辺の衰退樹木等のモニタリング調査

過去に調査した標高別プロットの対象木について調査し比較・検討します。

4. 縄文杉と夫婦杉周辺の下層植生等の状況調査

縄文杉下方の植生状況を確認調査し、これまでの調査と比較・検討を行います。また、縄文杉周囲の立木についても毎木調査を実施します。

5. 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

気象庁のデータ及び各機関等のモニタリング調査等からデータ収集を行い分析評価します。

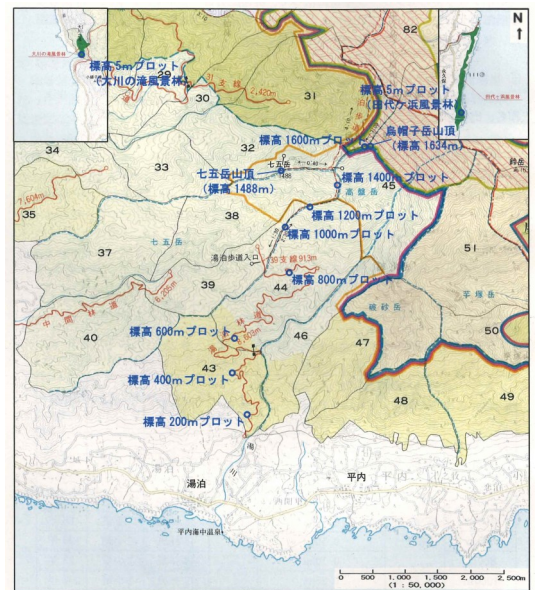


図1. 調査プロットの位置



図2. 花之江河の現況



屋久島の植物

アデク（フトモモ科）

九州南部以南に分布する常緑小高木。屋久島では低地から標高1000m付近までの林縁や林内で見られる。葉は対生してなめらかな楕円形で、両面とも側脈は目立たない。7～8月に開花、花は淡黄色で、フトモモの花を極小にした様子。

屋久島生態系モニタリング



屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

●標高800m^トプロット（愛子岳東側斜面）

林齢164年生の天然林。プロット内の傾斜は標高400m^トや600m^トプロットに比較するとそれほど急ではない。この標高辺りから風当たりが強く冬季の積雪も多くなるので、斜立木や梢端変形木が多い。広葉樹の薪炭利用はあまりされなかったようであるが、プロット周辺には、古い時代に伐られた天然性のスギ伐株が見られることより、何らかの人為的利用に供していた二次林と推測される。

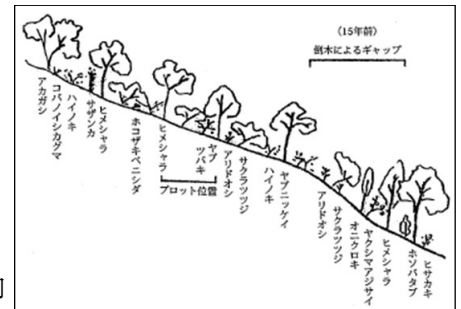


標高800m^トプロットの林相

〔優占種の変化〕

階層区分	2001年	2006年	2011年	2016年
高木層(6.0m以上)	ヒメシャラ	バリバリノキ	バリバリノキ	タブノキ
亜高木層(3.0~6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2~3.0m)	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ
草本層 I (0.3~1.2m)	ヤクシマアジサイ	ヤクシマアジサイ	ヤクシマアジサイ	サザンカ
草本層 II (0.3m未満)	—	ホコザキベニシダ	ホコザキベニシダ	ホコザキベニシダ

草本層の上層(既往の草本層)を草本層 I、草本層の下層(地表被覆層)を草本層 IIとして定義



群落縦断面図

〔概要〕

- ヒメシャラ-ヤクシマアジサイ群集。高木層に属する個体が少ないため林内は明るい。冷温帯草本であるコバノイシカグマが出現するのも、この標高のプロットから上である。シシランなどの樹幹上の着生植物が多いのもこの林分の特徴である。
- プロットより下の斜面には倒木による大きなギャップができており、そこにはハイノキ、稚樹が多く、周りにはホソバタブ、ヒメシャラ、ウラジロガンなどの高木が生育している。上方では、傾斜したヤマグルマ(径1m[±])の大木も見られる。
- 萌芽枝(ヤブニッケイ)に食害が比較的多く見られた。ヤクシマアジサイは、5年前と比較すると成長も旺盛で、開花中の個体も見られた。

マナーの向上を呼びかける!! ～「夏休み期間中のパトロール」を計画～

平成30年度においても当保全センターでは、屋久島森林管理署と連携・協力し、登山者が多くなる夏休み期間中のパトロールを計画しています。

本年は、7月30日(月)～8月31日(金)の間で計画し、高山植物等の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。森林パトロールのコースは、縄文杉登山ルートを始め宮之浦岳等の主要な登山道を計画し実施します。

今年は、日本各地で猛暑が続き熱中症等で体調を崩される方々が大変多くなっています。登山される方々へも注意を呼びかけ、楽しく登山するには安全で怪我なくマナーを守り、無事に下山することが重要です。

屋久島の海岸地帯から山頂へと続く自然豊かな森林を楽しみ、雄大な山岳地帯の動植物に囲まれ触れていただければ最高の思い出になると思います。

登山される皆様は、事前の情報収集と体調管理を万全に行いましょう。



黒味岳山頂を望む